

令和4年度 青少年育成地域懇話会 in 恵庭市

当協会では、地域の青少年育成市町村民会議等と共催で、有識者と地域の青少年育成関係者が意見交換等を行う「青少年育成地域懇話会」を、毎年2か所で開催しています。

今回は、8月に開催した恵庭市の懇話会の概要を報告します。

テーマ 「ネット社会に生きる恵庭の子ども達を育むために」

日時／令和4年8月26日（金） 場所／恵庭市民会館3階中ホール
共催／恵庭市青少年育成市民の会 後援／恵庭市教育委員会

講話「子どものSNSやインターネットの問題を考える～大人は何をすべきか～」

講師 北翔大学教育文化学部心理カウンセリング学科 教授 いいだ あきひと 飯田 昭人 氏



概要

北翔大学教授の飯田昭人氏から、現在の子どもたちとSNSの関係を踏まえ、私たち大人が心がけておきたいことについてお話いただきました。

今、SNSは子ども達の生活に身近なもので、一部の子ども達には欠かせない「居場所」になっており、SNSなどのネットにおける人間関係も尊重することが大切であること。そして、家庭・家族を「第一の居場所」、学校などを「第二の居場所」、町内会など地域社会全般を「第三の居場所」と考え、それぞれで、子どもも大人もインターネットの情報や事象を正しく理解し、適切に使える能力を養うことが必要と指摘がありました。

その上で、私たち大人が心がけたいこととして、“自分のことをわかってもらう相手に対して、自分もその相手をわかってもらうのが人間”との考えに立ち、子ども達にSNSの利用を規制するより、対話を通して、粘り強く一緒に使用時間や使用方法などを考えていくことが理想であり、大人が「対話」を通して、子ども達と「つながり」を構築し続けていく努力と覚悟が必要だと結ばれました。



参加者による意見交流 テーマ「大人が子どもと向き合うために必要な知識や情報とは？」

講話の後、42名の参加者がグループに分かれ、北海道教育庁石狩教育局の小田島美雪社会教育主事の進行で意見交流が行われました。交流後には、グループの代表から、「核家族化や近所付き合いの希薄化でコミュニケーションが不足している。『対話』の重要性を感じた。」「日常的なコミュニケーションで時間を共有することが大事。SNSも家族で上手に使うことも有用ではないか。」「SNSを理解するために大人も積極的に使ってはどうか。ネットリテラシー教育には、PTAや地域も巻き込んで取り組むことが必要」などの意見が紹介されました。



意見交流会での活発な議論



グループの代表からの意見紹介

最後に、会場から寄せられた講演の感想や質問などについて飯田講師から丁寧なコメントをいただき、子ども達を支える様々な立場の参加者が一緒に話し、考える貴重な機会となった地域懇話会となりました。

令和4年度 青少年育成地域懇話会 in 新ひだか町

当協会では、地域の青少年育成市町村民会議等と共催で、地域の青少年育成関係者が意見交換等を行う「青少年育成地域懇話会」を開催しています。今回は、11月に新ひだか町で開催した懇話会の概要を報告します。

テーマ 「子どもを守り育てる地域コミュニティの重要性」

日 時／令和4年11月26日（土）

場 所／新ひだか町コミュニティセンター

共 催／新ひだか町青少年健全育成運動推進協議会

後 援／新ひだか町／新ひだか町教育委員会

●講 話 「ウィズコロナ時代」の地域コミュニティの在り方

講師（パネラー兼講評） 北海学園大学経済学部地域経済学科教授

内田 和浩 氏

●意見交流 パネルディスカッション

コーディネーター 日高教育局教育支援課社会教育指導班主査

影山 英明 氏

パネラー

新ひだか町青少年健全育成運動推進協議会事務局長

山口 理絵 氏

●概 要

はじめに活動発表として、地元小学生のダンスサークル「NZPG」による明るく元気なダンスが披露され、会場は、大きな拍手に包まれました。

■講話

北海学園大学教授の内田和浩氏から、地域コミュニティの在り方についてお話しいただきました。

地域コミュニティとは、人々の日常生活圏域を指します。子どもの減少による小中学校の統廃合で、「学区」という地域空間が広がりました。これにより、地域コミュニティが拡大する一方、どの組織にも属さない住民が増加し、住民の関係性が希薄化しています。また、コロナ禍により、地域活動は開店休業や事業の中止に追い込まれて、ノウハウが消え、地域の経済活動の縮小が進んでいるのが実情です。

今後のウィズコロナ時代には、意識して働きかけないと地域コミュニティは維持できません。人が集い、話し合い、一緒に何かをするためには、どんな仕組みや配慮が必要か、改めて考えることが重要になっています。人口や税収が減少する中で、地域の営みや住民の生活が充実したものになっていくためには、住民が「市民」となって、地域づくりの主体となっていくことが不可欠です。

今住民の多くは、行動する人・支援する人＝[主体]と、行動しない人・支援される人＝客体との中間を揺らぎ、行き来している実態にあります。この中間領域には「役に立ちたい」人も確実に存在します。こうした潜在的ボランティアの協力をどれだけ得られるか、それがこれからの地域社会を作る『鍵』になると考えます。

■意見交流（パネルディスカッション）

○参加者から見守り活動の紹介がありました。

登下校時の見守り活動をしています。これからの取組をメンバーで話し合い、ごみステーションの整備をした時に、子どもたちが応募してくれた「標語」を表出したら、子どもたちもたいへん喜んでくれました。

○町内の取組が報告されました。

いろいろな文化・スポーツの活動があり、学校や学年の違う子どもたちが共通の目標を通じて様々なことを学んでいます。子ども達を見守る活動の子ども110番「ポニーの家」には、多くの町民に参加いただいています。

○内田先生からの講評

子どもたちを見守り育てる活動として、できることをできる範囲でやることはとても大切なことです。その過程で話し合いをし、更に課題を見つけていくという手順で、素晴らしい活動が行われていると評価できますね。



講話後の感想意見を付せんに入



パネルディスカッション